

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年1月29日

会社名 株式会社 静岡中央銀行

URL http://www.shizuokachuo-bank.co.jp/

代表者 (役職名)取締役社長 (氏名) 清野 眞司

問合せ先責任者(役職名)経営管理部長 (氏名) 平山 浩二 TEL 055-962-6113

四半期報告書提出予定日 2021年2月8日 特定取引勘定設置の有無 無

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1)連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021 年 3 月期第 3 四半期	10, 038	△4.8	1, 819	△35.0	1, 315	△31.8
2020年3月期第3四半期	10, 549	△0.5	2, 801	△17. 4	1, 931	△19.0

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 5,633百万円(69.7%) 2020年3月期第3四半期 3,319百万円(290.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	54. 82	_
2020年3月期第3四半期	80. 47	_

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021 年 3 月期第 3 四半期	780, 571	50, 967	6. 5
2020年3月期	705, 747	45, 454	6. 4

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 50,967百万円 2020年3月期 45,454百万円

(注)「自己資本比率」は、期末純資産の部合計を期末資産の部合計で除して算出しております。 なお、本「自己資本比率」は、自己資本比率告示に定める自己資本比率ではありません。

2. 配当の状況

- HO - 47 M/M						
		年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円 銭	円 銭	円銭	円銭	円銭	
2020年3月期	_	2. 50	_	2. 50	5. 00	
2021年3月期	_	2. 50	_			
2021年3月期(予想)				2. 50	5. 00	

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1 株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%		円 銭
通期	1, 810	△21.0	1, 300	△16.9		54. 16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無② ①以外の会計方針の変更 : 無

 ③ 会計上の見積りの変更
 : 無

 ④ 修正再表示
 : 無

(4)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2021年3月期3Q	24, 000, 000 株	2020年3月期	24,000,000 株
2021年3月期3Q	—株	2020年3月期	—株
2021年3月期3Q	24,000,000株	2020年3月期3Q	24,000,000株

- ※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です
- ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
 - ・本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、当行が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に 基づいており、実際の業績等は新型コロナウイルス感染拡大の影響等の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
(1)経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
(継続企業の前提に関する注記) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
3. 補足情報【 2021 年 3 月期第 3 四半期決算説明資料 】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
(1) 損益の状況 (単体)	7
(2) 預金・貸出金の残高(単体) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
(3) 自己資本比率(国内基準)	8
(4) 金融再生法ベースのカテゴリーによる開示(単体) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Ĉ
(5) 時価のある有価証券の評価差額(単体) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ç
(6) デリバティブ取引(単体) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Ĝ

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1)経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染拡大による「緊急事態宣言」が4月に全国を対象に発令され、5月には全面解除となったものの、様々な行動制限によって社会経済活動が急速に停滞し、あらゆる業種で景況感は大幅に悪化しました。

先行きにつきましても、新型コロナウイルス感染拡大 "第3波"により、1月に 11 都府県を対象に「緊急事態宣言」が再発令されるなど予断を許さない状況にあり、当行の主要な営業エリアである静岡県・神奈川県の地域経済におきましても、実体経済や景況感は厳しい状況が続いております。

このような状況下、当行は 2020 年 4 月より、第 13 次中期経営計画『進化Ⅲ』をスタートし、行動指針「Change(改革)&Action(実践)」のもと、基本方針の柱である「お客様中心主義」を進化させ、あらゆる場面でお客様との接点を深め、細部に亘るマーケティングを実践し、地域の皆さまやお客様のニーズに合った商品・サービスの提供、諸施策の推進に努めてまいりました。その結果、着実にお客様が増加し、次のような成果を収めることができました。

当第3四半期連結累計期間の連結経営成績は、以下の単体経営成績を主因とし、経常収益は前年同期比5億10百万円4.8%減収の100億38百万円、経常費用は前年同期比4億72百万円6.0%増加の82億19百万円となりました。その結果、経常利益は前年同期比9億82百万円35.0%減益の18億19百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比6億15百万円31.8%減益の13億15百万円となりました。

【 単体経営成績 】

預金・貸出金

預金につきましては、地域振興を目的とした地元商店街等との連携による「お買い物券付定期預金」や主に店舗周辺のお客様を対象とした新商品「ご近所応援定期エール」、年金関連定期預金「バースデー」等の年金関連サービスを中心に積極的な営業活動を展開してまいりました。その結果、新型コロナウイルス感染症に係る特別定額給付金等の受入れもあり、当第3四半期末の預金残高は前年同期末比592億94百万円9.3%増加の6,945億94百万円となりました。

貸出金につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたお客様への積極的な金融支援を第一に取組んでまいりました。「訪問頻度管理」による定期的な顧客訪問の徹底により、お客様の業況やニーズを迅速且つ適切に把握し、「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」に基づくセーフティネット保証や危機関連保証、実質無利子・無担保融資制度等を活用した資金繰り支援に取組むなど、金融仲介機能の発揮に努めてまいりました。その結果、当第3四半期末の貸出金残高は前年同期末比491億81百万円9.4%増加の5,687億72百万円となり、うち中小企業等向け貸出金は前年同期末比410億70百万円8.4%増加の5,250億38百万円、貸出金に占める中小企業等向け貸出金比率は92.3%となりました。

② 利益

当第3四半期の経常収益は、貸出金利息が2年連続、預貸金利益(貸出金利息-預金利息)が4年連続で増加するなど本業が堅調に推移したものの、有価証券利息配当金の減少等により、前年同期比5億13百万円4.9%減収の99億49百万円となりました。

経常費用は営業経費等が減少したものの、有価証券関係費用の増加等により、前年同期比5億13百万円6.6%増加の82億90百万円となりました。

その結果、経常利益は前年同期比 10 億 26 百万円 38.2%減益の 16 億 58 百万円、四半期純利益は前年同期比 6 億 47 百万円 34.9%減益の 12 億 6 百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比 748 億 24 百万円増加(前年同期末比 662 億 72 百万円増加)の 7,805 億 71 百万円、負債は前連結会計年度末比 693 億 11 百万円増加(前年同期 末比 658 億 97 百万円増加)の 7,296 億 3 百万円となりました。また、純資産は前連結会計年度末比 55 億 13 百万円増加(前年同期末比 3 億 75 百万円増加)の 509 億 67 百万円となりました。

主要な勘定残高につきましては、貸出金は前連結会計年度末比 510 億 53 百万円増加(前年同期末比 491 億 81 百万円増加)の 5,687 億 72 百万円、預金は前連結会計年度末比 641 億 14 百万円増加(前年同期 末比 590 億 68 百万円増加)の 6,932 億 67 百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年11月13日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1)四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

		(本位:日/3/1)
科目	前連結会計年度 (2020 年 3 月 31 日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
(資産の部)		
現金預け金	55, 363	76, 730
金銭の信託	948	<u> </u>
有価証券	117, 690	123, 823
貸出金	517, 719	568, 772
その他資産	4, 472	3, 857
有形固定資産	8, 537	8, 373
無形固定資産	333	266
繰延税金資産	2, 118	300
支払承諾見返	241	248
貸倒引当金	$\triangle 1,678$	$\triangle 1,801$
資産の部合計	705, 747	780, 571
(負債の部)	100,111	100, 011
預金	629, 152	693, 267
借用金	22, 884	30, 200
その他負債	4, 937	3, 114
賞与引当金	373	188
で	41	——————————————————————————————————————
退職給付に係る負債	446	450
役員退職慰労引当金	610	592
睡眠預金払戻損失引当金	15	15
偶発損失引当金	231	168
再評価に係る繰延税金負債	1, 357	1, 357
支払承諾	241	248
負債の部合計	660, 292	729, 603
(純資産の部)	333, 232	.20, 000
(株主資本)		
資本金	2,000	2,000
資本剰余金	0	0
利益剰余金	42, 072	43, 268
株主資本合計	44, 073	45, 269
(その他の包括利益累計額)		
その他有価証券評価差額金	$\triangle 1,606$	2, 673
土地再評価差額金	3, 121	3, 121
退職給付に係る調整累計額	△134	△97
その他の包括利益累計額合計	1, 380	5, 698
純資産の部合計	45, 454	50, 967
負債及び純資産の部合計	705, 747	780, 571
<u> </u>	l .	

(2)四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
科目	前弟3四十朔連結系計期间 (自 2019 年 4 月 1 日	
	至 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	至 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
	至 2019年12月31日)	至 2020年12月31日)
経常収益	10, 549	10, 038
資金運用収益	8, 483	7, 461
(うち貸出金利息)	5, 962	6, 263
(うち有価証券利息配当金)	2, 508	1, 182
役務取引等収益	795	797
その他業務収益	241	333
その他経常収益	1, 028	1, 447
経常費用	7, 747	8, 219
資金調達費用	345	325
(うち預金利息)	345	325
役務取引等費用	932	923
その他業務費用	50	65
営業経費	5, 602	5, 209
その他経常費用	816	1, 696
経常利益	2, 801	1,819
特別利益		_
特別損失	45	0
固定資産処分損	37	0
固定資産減損損失	8	_
税金等調整前四半期純利益	2,756	1,818
法人税、住民税及び事業税	753	510
法人税等調整額	71	△8
法人税等合計	824	502
四半期純利益	1, 931	1, 315
親会社株主に帰属する四半期純利益	1, 931	1, 315

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

科目	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	1, 931	1, 315
その他の包括利益 その他有価証券評価差額金 退職給付に係る調整額	1, 387 1, 362 24	4, 317 4, 279 37
四半期包括利益	3, 319	5, 633
(内訳) 親会社株主に係る四半期包括利益	3, 319	5, 633

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. 補足情報【 2021 年 3 月期第 3 四半期決算説明資料 】

(1) 損益の状況(単体)

- 銀行本来の収益力を示す<u>「投資信託解約損益を除くコア業務純益」</u>は、第3四半期ベースで貸出金利息が2年 連続、預貸金利益(貸出金利息-預金利息)が4年連続で増加するなど本業が堅調に推移し、経費削減等も 寄与したことで、前年同期比4億13百万円35.3%増益の15億85百万円となりました。
- また、「コア業務純益」は、上記のとおり本業が堅調に推移したものの、有価証券利息配当金の減少等により、 前年同期比5億81百万円25.0%減益の17億44百万円となりました。

(単位:百万円)

				(単位:日カロ)
	2021年3月期		2020年3月期	2021年3月期
	第3四半期	前年同期比	第3四半期	中間期
業務粗利益	7, 070	△911	7, 981	4, 486
コア業務粗利益(注	1) 6, 802	△988	7, 790	4, 278
資金利益	7, 132	△1,003	8, 136	4, 568
預貸金利益	5, 938	321	5, 617	3, 903
役務取引等利益	△330	15	△345	△289
その他業務利益	267	76	191	208
(うち国債等債券損益(5勘定尻))	267	76	191	208
経費(除く臨時処理分)		△406	5, 464	3, 405
人件費 (Д	.) 2, 781	△14	2, 796	1, 868
物件費(人		△371	2, 322	1, 309
税金()		△19	344	227
実質業務純益(一般貸倒引当金繰入前)(注	· ·	△504	2, 517	1, 081
コア業務純益(注		△581	2, 325	873
コア業務純益(除く投資信託解約損益)	1, 585	413	1, 171	810
①一般貸倒引当金繰入額 (2	.) 97	51	46	82
業務純益	1, 914	△555	2, 470	998
うち国債等債券損益 (5勘定尻)	267	76	191	208
臨時損益	△255	△470	215	△96
②不良債権処理額 (2	(1) 434	56	377	138
個別貸倒引当金繰入額 (2	434	56	377	138
③貸倒引当金戻入益	_	_	_	_
④偶発損失引当金戻入益	62	△5	68	17
償却債権取立益	0	_	0	0
株式等関係損益(3勘定尻)	201	△620	822	6
その他臨時損益	△85	212	△298	18
退職給付費用(Д	•	17	35	35
経常利益	1, 658	△1,026	2, 685	901
特別損益	Δ0	44	△45	Δ0
固定資産処分損益	Δ0	36	△37	Δ0
固定資産減損損失		Δ8	8	
税引前四半期(中間)純利益	1, 658	△981	2, 640	901
法人税、住民税及び事業税(△219	690	267
法人税等調整額(△114	94	△33
法人税等合計(2		△334	785	234
四半期(中間)純利益	1, 206	△647	1, 854	667
与信費用(①+②-③-④)	469	113	355	204
コア業務粗利益OHR (注	74. 3%	4. 2%	70.1%	79.5%

 (注1) コア業務粗利益
 = 業務粗利益 - 国債等債券損益

 (注2) 実質業務純益
 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額

 (注3) コア業務純益
 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額 - 国債等債券損益

 (注4) コア業務粗利益OHR
 = 経費 ÷ (業務粗利益 - 国債等債券損益)

(2) 預金・貸出金の残高(単体)

① 預金の状況

○ 2020 年 12 月末の<u>「預金残高」</u>は、前年同期末比 592 億 94 百万円 9.3%増加の 6,945 億 94 百万円となり、 うち個人預金は同 217 億 48 百万円 4.9%増加の 4,637 億 96 百万円となりました。 なお、<mark>「預金平残」</mark>は、前年同期末比 469 億 39 百万円 7.6%増加の 6,608 億 65 百万円となりました。

(単位:百万円)

	2020 年 12 月末	2019年12月末
預 金 (末 残)	694, 594	635, 300
うち 個 人 預 金	463, 796	442, 048
うち法人預金	230, 798	193, 252
預 金 (平 残)	660, 865	613, 926

2020 年 9 月末				
678, 842				
	454, 740			
	224, 101			
	652, 350			

② 貸出金の状況

○ 2020 年 12 月末の「貸出金残高」は、前年同期末比 491 億 81 百万円 9.4%増加の 5,687 億 72 百万円となり、 うち中小企業等向け貸出金は 5,250 億 38 百万円、中小企業等向け貸出金比率は 92.3%となりました。 なお、「貸出金平残」は、前年同期末比 393 億 16 百万円 7.7%増加の 5,470 億 69 百万円となりました。

(単位:百万円)

			2020 年 12 月末	2019年12月末	
Į.	貸出金 (末残)		568, 772	519, 591	
うち中小企業等向け貸出金		5中小企業等向け貸出金	525, 038	483, 968	
	中小企業等向け貸出金比率		92. 31%	93. 14%	
	うち消費者ローン		168, 503	163, 911	
	うち住宅ローン		161, 381	157, 819	
		うちその他ローン	7, 121	6, 092	
į	出道	金 (平 残)	547, 069	507, 752	

(+ H : H / 3) 1/				
2020年9月末				
558, 667				
514, 626				
92. 11%				
166, 960				
160, 234				
6, 726				
541, 158				

(3) 自己資本比率(国内基準)

- 2021 年 3 月末の<u>「連結自己資本比率」</u>は、11.2%程度を予想しております。
- 2021年3月末の「単体自己資本比率」は、11.0%程度を予想しております。

	2021 年 3 月末 (予想値)		
連結 自己資本比率	11.2% 程度		
単体 自己資本比率	11.0% 程度		

2020年3月末	2020 年 9 月末		
(実績)	(実績)		
10. 84%	11. 30%		
10. 67%	11. 10%		

(注) 上記予想値は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い変動することがあります。

(4) 金融再生法ベースのカテゴリーによる開示(単体)

○ 2020 年 12 月末の<u>「金融再生法ベースの開示債権額」</u>は、前年同期末比 1 億 79 百万円増加の 59 億 41 百万円となり、総与信に占める割合は同 0.06 ポイント低下の 1.04%となりました。

(単位:百万円)

	2020年12月末	2019 年 12 月末	2020年9月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2, 176	2, 046	1, 765
危 険 債 権	3, 334	3, 318	4, 029
要管理債権	429	396	449
合 計	5, 941	5, 761	6, 245
総与信残高(末残)	569, 498	520, 220	559, 298
総与信に占める割合	1. 04%	1. 10%	1. 11%

- (注1) 記載金額は単位未満を、比率は小数点第3位を切り捨てて表示しております。
- (注2) 上記の四半期末(2020 年 12 月末)の計数は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則」第4条に規定する各債権のカテゴリーにより分類しておりますが、集計方法については、以下の点につき年度末又は中間期末に開示する計数とは異なるため計数は連続しておりません。
 - ○2020 年 12 月末の「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」の金額は、同年9月末時点における債務者 区分(※)をベースとし、同年9月末から 12 月末までの倒産、不渡り、延滞等の客観的事実のほか、当行の定める自己 査定基準に基づき債務者区分の見直しを行い、2020 年 12 月末残高にて開示しております。
 - ○2020 年 12 月末の「要管理債権」の金額は、同様に同年 9 月末時点における「要管理債権」をベースとし、同年 9 月末から 12 月末までに新たに「要管理債権」となった貸出債権及び回収状況並びに債務者区分の変更を勘案し、2020 年 12 月末残高にて開示しております。

※債務者区分との関係

- ・破産更生債権及びこれらに準ずる債権(実質破綻先、破綻先の債権)
- ・危険債権 (破綻懸念先の債権)
- ・要管理債権(要注意先のうち、元本又は利息の支払が3ヵ月以上延滞しているか、又は貸出条件を緩和している債権)

(5) 時価のある有価証券の評価差額(単体)

○ 2020 年 12 月末の「時価のある有価証券の評価差額」は、前年同期末比6億 17 百万円減少の 37 億4百万円 となりました。

(単位:百万円)

	2020 年 12 月末			2019 年 12 月末				
					時 価	評価		
	h4 JIII	差額	うち益	うち損	时 画	差額	うち益	うち損
その他有価証券	120,385	3,704	5,938	2,234	117,323	4,322	7,115	2,793
株式	21,266	2,897	4,655	1,757	23,345	3,153	5,209	2,055
債 券	69,360	175	339	164	62,950	655	731	75
その他	29,758	631	942	311	31,027	512	1,174	662

2020 年 9 月末						
時	無	評価 詳価 差額 うちă				
μij	Щ		うち益	うち損		
112,	12,936 1,229		4,830	3,600		
20,	537	1,072	3,697	2,625		
62,	411	178	417	238		
29,	987	△21	715	736		

- (注1) 2020年12月末の「評価差額」及び「含み損益」は、同年12月末時点の帳簿価額(償却原価法適用後、減損処理後)と時価との差額を計上しております。
- (注2) 満期保有目的の債券、子会社・関連会社株式で時価のあるものはありません。

(6) デリバティブ取引(単体)

該当ありません。

以上